

「令和2年度 東京医療保健大学 点検・評価報告書」における教育研究活動等の取組状況及び課題等に関する外部評価委員会からのご意見等について

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>【委員A】</p> <p>1. ウィズコロナ時代に対応するため、ICTを用いたハイブリッド型授業の中で対面による学修機会を最大限に確保する体制構築の取組については高く評価します。</p> <p>本文中に「学習基盤推進室」が2021年3月から設置されたとありますが、この組織の位置づけと、今後の具体的な活動について、見通しを教えてください（24頁）。</p> <p>2. 「国家試験対策プロジェクト」により、各種国家試験の合格率が高く、取組を評価いたします。一方で、「管理栄養士国家試験合格率」のうち令和元年度が、全国平均を下回っており、翌年に再度回復しております。原因分析と支援策について教えてください（25頁）。</p>	<p>デジタル・トランスフォーメーション(DX: Digital Transformation)によるICTを活用した全学的な学修基盤の整備に関するを行い、遠隔授業や臨地実習の代替演習を行うためのシミュレーション機器のハードウェアの調査や、資源共有の為の貸出などを行うとともに、「リベラルアーツ教育」や「STEAM教育」「分野・学部等横断カリキュラム」などの共通的に提供すべき学修コンテンツの整備に関することを目指しています。</p> <p>本学科の国家試験対策は、国試対策委員会・国試対策室担当者が協力しながら、3年生まではガイダンスと数回の実力確認模試、4年生には毎週の過去問チャレンジ講座、5回の模擬試験による実力確認、個人面談による個別指導、LMSの利活用、専門家による特別講座、教員による直前国試対策講義、などを行っています。</p> <p>管理栄養士の国家試験は6割(200点中120点)以上の成績で合格となるので、毎年20名前後のボーダーライン近くの学生の指導が重要になります。</p> <p>国試の難易度は年度により異なり、令和元年度は全国平均合格率が3.1%下落し難易度が高かったと思われ、それが本学のボーダーライン近くの学生に大きく影響し合格率が下降したと考えました。そこで、①例年より合格可能基準を高く設定し、個別指導の対象学生層を広げ、オンラインでの遠隔面談を増やす等で個別指導を手厚く行うとともに、アドバイザーからの更なる指導も依頼しました。②LMSコンテンツの充実、③本学科教員の対面による国試対策講義の</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>3. 卒業時到達目標の達成度調査において、前年度に比べて自己評価が高くなっており、コロナ禍においてへこたれない力が身につけていると評価されておられました（26 頁）。臨地実習が少なくなっており、良か悪か、へこたれる経験が少ない分、実際に臨床で働いた時のリアリティショックが大きくなるのではと思います。実際に、就職状況と離職率、休職率などはコロナ前と後では変化があるのでしょうか。もし分かれば教えてください。</p> <p>4. 遠隔授業ツールを多数そろえる等の ICT プロジェクトチームの取組を高く評価いたします。特に、シミュレーション機材だけでなく、臨地実習が行えない中で教育用電子カルテ（Medi-EYE）を用いていることは素晴らしいです。一方で、Medi-EYE では、既存のシナリオがありますが、臨地実習に近づけるために工夫などしていることあれば、教えてください（26 頁）。</p>	<p>強化などを行いました。令和 2 年度は、問題内容から国家試験は易しかったと判断していますが、全国平均合格率が少し下落しているのはコロナ禍のため多くの大学で国試対策が進まなかった影響と考えています。本学では全学生にノートパソコンが貸与されており、国試対策もスムーズにオンライン化でき、例年と同じ水準での実施が可能でした。以上のようなことから令和 2 年度の合格率が全国平均を上回ることができたと考えています。本年もこのような対策を強化しています。</p> <p>2021 年 3 月卒業生の就職内定率は 100%でした。2020 年度はコロナ禍での採用活動となり、自分で情報を収集しながら計画的に就職活動をはじめた学生は昨年 4 月の緊急事態宣言前に説明会等にアプローチができておりました。一方、コロナ禍で説明会や見学会等にアプローチできないことで受験する病院の選択に課題もでてきております。採用する側の病院は就職後のフォローに関し、コロナ禍で十分な実習を受けられなかった補い安心して就職できるよう、新人研修など新人教育体制を整える病院が増えております。</p> <p>教育用電子カルテ教材（Medi-EYE）は実際の病院での患者さん事例をもとに作成された 24 事例がありますが、この事例から科目の到達目標と評価、学生のレディネス分析、国家試験での頻出疾患分析に基づき 5 事例を抽出しました。5 事例は、基礎看護援助実習に必要な情報の取捨選択・追加修正を行いました。臨地実習に近づける工夫としては、Medi-EYE からの情報収集後、情報収集シミュレーションでは、適切な情報収集とコミュニケーション、倫理的態度を実践できるように教員が模擬患者を演じました。学生は Medi-EYE と情報収集シミュレーションにより包括的アセスメント・関連図の作成・看護問題の明確化と優先順位の決定を行い、看護計画の立案を実施しました。計画立案後は、包</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>5. 模擬患者などを用いたシミュレーション教育は、臨場感やリアリティ等の没入感によって、学習効果が左右されます。奈良医大における医学教育では、医療面接などでは、訓練を受けた役者や患者ボランティアの活用など行っていました。通常の実習に劣らない学びを得られたとありますが、貴学として、学習効果をあげるための工夫などあれば教えてください（27頁）。</p>	<p>括的・系統的な状態観察や生活の援助技術を行う実践では、身体的・技術的な忠実性が高く・トレーニングされた模擬患者 12 名×2 日間でのシミュレーションを実施（それ以外の日程は学生同士・低機能シミュレータで実施）、その場の状況に応じた（臨床判断に基づく）状態観察を行う実践は、患者の異常状態を再現できる中機能シミュレータ 5 体×6 日間で実施しました。また、病院の環境と患者と多職種連携を想起するために（リアリティや没入感を高めるために）、実際の病院環境で作成された VR 教材や動画教材や DIPEXJapan を活用した GW を実施しました。</p> <p>【医療保健学部看護学科】</p> <p>臨地実習が代替実習に変更となったことで、環境的忠実性は学内実習室・オンライン・教育用電子カルテ教材、身体的忠実性は模擬患者・中機能シミュレータ・学生、精神的忠実性としては教員と模擬患者と VR 教材や動画教材などの模擬・仮想現実という制約が生じました。</p> <p>しかし、4 で記載したようにそれぞれの場面での目標設定に合わせて再現可能なツールや環境や人員を取捨選択したこと、臨地実習と同様のタイムスケジュールと看護過程の展開・日々の行動計画を実践できるようなスケジュールと授業設計としました。また、模擬患者には 3 週間前に学修目標やシナリオを含む授業案を配布、二日間の訓練を行ったうえでシミュレーションの実演、ディブリーフィングでの気づき、振り返りでの学生指導に当たってもらいました。</p> <p>さらに、記録指導に十分な時間を確保できるように Teams を活用し、担当教員と学生がインタラクティブな方法で記録指導を実施、中機能シミュレータを活用したシミュレーションでは学生全員のフィジカルイグザミネーションの技術を確認・指導できる授業設計としました。このことにより、学生の思考や</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>6. 遠隔授業の増加による課題・レポートの増加に対する対策として、教員間の情報共有を密にするとあります。実際に私も対応にあたっていますがかなり難しいと感じています。具体的にどのように実行されているのか教えてください（32頁）。</p> <p>7. 学生の自宅に送った乳児人形で、ZOOM を使った遠隔演習は素晴らしい取組だと思います（42頁）。</p>	<p>記録や技術を担当教員が直接確認できる、これまで体験が難しかった救急場面を体験することができる（レディネスの統一）ことが可能であり、学生からの評価ならびに科目の評価も昨年度とほぼ同評価となりました。</p> <p>遠隔授業における学生についての教員間の情報共有としては、学生の出席状況あるいはレポート提出状況で問題がある場合は、早めに（毎週）授業担当者からアドバイザーへメールで連絡し、アドバイザーが対応するようにしています。また対面で行う実験科目で実験器具などを各科目間で共有する場合は、関係教員間で情報共有を行い、各器具を取り扱う初回の科目対面実習時に詳しく説明するようにしています。遠隔授業になって負担が増加した課題・レポートの提出の増加に対しては、①遠隔授業では週単位（月曜日から金曜日まで）で動画などの授業を完全に視聴し終える方法で統一し、レポート等課題は、学生の取り組み時間に配慮した期限を各科目で設定するようにしました。②1年次のレポート作成において、担当教員間でレポートの書式化とレポート作成方法を文章化して指導に用いました。また、ルーブリック評価を関連する教員間で共有化するなどして、学生の課題・レポートの増加に対して対策を行っています。</p> <p>1 学年を 3 回に分け、3 人の教員が「正しい乳児の抱き方」「重さの体験」「おむつ交換」「寝衣交換」などのスキルを Zoom 下でモデリングを実施しました。学生が自己練習の成果を動画に撮って貰い、教員が視聴しながら個別指導・評価を行い、手技の定着を図りました。学生の在宅での演習は高評価を得ました。</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>8. 令和2年度の災害看護学実習のマストリアージ実習を ZOOM のブレイクアウトルームで仮想被災現場を設定したシミュレーションでは、実際の DMAT 隊員が救急隊役で参加していることは大変素晴らしいです。(42 頁)</p> <p>その他、看護部長、教育担当看護副部長などを交えた ZOOM 会議、各論実習においても制約の中で、実習指導者をインターフェースとして、学生の看護計画を実行に移すなど、学習効果を高める取組も素晴らしいです。(43 頁)</p> <p>9. 受験者が多い中、大学院高度実践看護コース修了者数が 2019 年度に 12 名まで減少している理由などあれば教えてください。(65 頁)</p> <p>10. 高度実践看護の実習において、COVID-19 の影響もある中で、教育目標を達成できたとあります。(65 頁) 具体的に学内外でどのような調整を行うことで実現できたのか、もう少し具体的に教えてください。</p>	<p>立川看護学部の取り組みにつきましてお褒め頂きまして有難うございます。主たる実習施設の災害訓練には授業の一貫として年二回参加し、役割を各種経験しております。毎年マストリアージ実習では事例の改善を重ね、DMAT 隊員の実際の講義を聞き、学習効果が挙がるように工夫しています。</p> <p>実習前後で、施設の看護管理者等の協力を得ながら直接話をし、質問にも直接答えて頂く方が学生の判断力アップに結び付き、評価は高い傾向です。</p> <p>2019 年度は看護学研究科高度実践公衆衛生看護コースか新設され研究科としての定員を増やさず 30 名程度のままであったため、積極的に募集活動をしなかったこと、また試験日を 9 月末に一回のみとしていたことの影響と考えています。</p> <p>具体的には以下のことが挙げられます。</p> <p>①1 年次の学修計画は外部講師も含めて講義、演習は予定通りに進み、「感染管理学」(木村哲)の講義 2 単位修了し、COVID-19 に関する基礎的知識は修得していた。</p> <p>②大学本部 COVID-19 対策本部の提案している体調管理表を用いて実施し記録を毎朝報告することを 1 カ月近く試み、全員が筆記試験、OSCE が修了した。</p> <p>③看護師の経験が 5 年以上在り、主としてクリティカルの領域での実践者であった。</p> <p>④実習病院 3 施設の状況を把握し、幹部への上記説明、理解を深めて貰った。</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>11. 病院では、情報セキュリティが厳しくなっております。学生に対する情報リテラシーに対する具体的な対策を計画しておられるでしょうか。(65 頁)</p> <p>12. コロナ禍の状況の中で、学生にパソコンを配布するなど、ICT 講義を進めていらっしゃる事が素晴らしいです。一方で、看護職の倫理綱領（日本看護協会）が、2021 年 3 月 15 日に改定されました。ICT の発展における個人情報の保護の在り方や災害時におけるあり方などが追加されております。これらの点について、今後の貴学の方針に踏まえていくかどうかは課題だと思います。</p>	<p>【看護学研究科】</p> <p>実習病院では個人情報保護方針に加え、詳細な情報管理のルールが定められています。患者に関連する情報管理に関しては、医療安全特論、医療倫理特論、コンサルテーション・インフォームドコンセント特論、保健医療福祉システム特論の中で事例検討を加えて講義、演習をしています。また、実習前には、各病院の情報管理についてのオリエンテーションを受けるようにさせています。情報リテラシーとしての教育は、個別には上記講義・演習の中で情報とコミュニケーション、情報倫理、社会と情報システム、情報ネットワークに関する講義と演習を行っています。さらに研究特論で文献検索、プレゼンテーションの講義・演習を行い、実際の研究においてそれらの実践を指導しております。今後、学部でも情報リテラシーとしての総合的な教育体制の構築を始めていますので、大学院でもその内容を再確認するとともに実践活用に向けての体制を整えたいと考えています。</p> <p>ICT の進歩と個人情報保護については、特に最近のソーシャルメディアの普及により自らが情報の発信者になる状況では、その重要性を強く認識すべき課題と考えています。特に医療従事者は職業人、私人として立場をわきまえずに情報発信をすると患者さんやその家族だけでなく、自分自身をも傷つけかねない状況が発生し得ます。新たな情報メディアには便利さとリスクが共存することは共通した性質であり、その点を含めて学ぶことが情報教育の重要なポイントであると考えています。災害時にはソーシャルメディアが被害状況、安否確認、有効な資源活用等の情報共有に有用であった事例が数多く報告されていますが、災害時には特に情報の信憑性を含めた情報の取扱いに慎重を要することも情報教育の上で欠かせない要素です。</p> <p>また、大学としては、政府が推進する AI 戦略 2019 に掲げられた数理・データ</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>13. ウェブサイトにおける、入学希望者に対する情報について、頻繁に更新されており、動画要素も多く、高く評価いたします。</p> <p>14. 卒業生の高い就職率を評価いたします。コロナの影響により、学部の卒業生の悩み相談内容について影響があったでしょうか（87 頁）。</p>	<p>サイエンス・AI 教育プログラム認定制度のモデルカリキュラムにそった共通科目の整備を進めており、その中で新しい科学技術を社会に普及させるためには ELSI のすべての課題に対処する必要性があること、たとえば ICT の発達と個人情報保護、データ倫理、AI 社会原則等の学びの機会をつくり、単なるマナーの修得にとどまらない、リテラシーの向上に努めたいと考えています。</p> <p>評価いただきありがとうございます。現在 Web を通じての情報提供は重要な役割となっておりますので、今後も受験希望者、入学希望者及び保護者向けのタイムリーな情報提供やコンテンツの充実に努めてまいります。</p> <p>新型コロナウイルスの感染が拡大した昨年度以降、対面でのインターンシップの機会が減少したことに伴う不安の相談が増えました。</p> <p>また、通勤時の感染に不安を感じる学生・保護者が増え、学生の就職先の選択基準の中で通勤距離、通勤時間のウェイトが高くなった印象があります。</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>【委員B】</p> <p>1. 医療保健学部を核とし、各学部とも前身の大学や専門学校からのシームレスな体制が整えられている。看護系学部を中心とした大学の構成であり、マスボリュームを活かし、ICTなどを用いた教育体制を構築しつつあることは高く評価される。具体的にはコロナ禍での遠隔及び対面のハイブリット授業の構築に加え、グローバル化へ向けた取組を行い、学ぶ機会の中に選択肢を提供している。さらには学生からの評価やニーズの確認も行い、把握がされている。結果的に国家試験合格率も高く、コロナ禍の困難な環境の中でも適切なマネジメントがなされていると高く評価される。パンデミックや大規模災害対応においては、看護師の肉体的、精神的負荷が非常に大きいことが指摘されているが、こうした面も看護師教育に取り入れて頂きたい。</p>	<p>【医療保健学部看護学科】</p> <p>医療保健学部看護学科では、4年次の「災害看護援助論」では被災者のみならず援助者の心理への理解とこころのケアについて取り上げています。また、「地域への愛 へこたれない力を育てる」というビジョンの元、対象への看護に関する教育だけでなく、看護職の役割や機能の発揮について取り扱う機能看護学を教授しています。1年次の機能看護学Ⅰでは「セルフマネジメントとは何か、どうすればできるか」をテーマとし、学生はグループディスカッションや現職の看護師からの講義を通して、身体的・精神的健康を保つことが自身の責任を果たすために必要であることを学んでいます。また、3年次の「機能看護学Ⅲ」では新人看護師が直面する多重課題のシミュレーション演習を通して、想定外の出来事が生じた場合に一人で抱え込むことなく、チームで協働することにより困難な課題に対処する方法などを学んでいます。今年度からは同時期に開講する「チーム活動論」と連動させながらチーム力に関する教育を強化し、危機的な状況に立ち向かう基盤を作っていきたいと考えています。</p> <p>【東が丘看護学部看護学科・立川看護学部看護学科】</p> <p>現看護系学部の大切な事項に関するご指摘有難うございます。コロナ禍で学生と教員間の距離が遠く、学生の顔が見えない状況で、一方向での情報の伝達等に偏っていないかと常に気にしております。つまり看護師として必要な知識・技術より態度面がICTを用いた教育では最も工夫が必要であり、力を入れて取り組まなくてはならない事項と考えております。学生達はラインやSNSなど自分達の考えで選択した情報を伝え合うようしており、望ましい看護師としての考え方、態度面に一致するとは言い難い現象も見られるのでご指摘の通り工夫していきたく考えます。</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
	<p>【千葉看護学部看護学科】</p> <p>千葉看護学部では、看護師のセルフマネジメントを学ぶ科目として機能看護学を1年次より開講しています。また、パンデミック等に特化した内容ではありませんが、精神的負荷の高い場面として知られている終生期のケアにおける看護師のメンタルヘルスとそのケアについては終生期看護援助論の授業において、その他、選択科目としてリラグゼーション論を開講し演習を交えてストレスマネジメントを学修できるようにしています。</p> <p>【和歌山看護学部看護学科】</p> <p>和歌山看護学部は、将来日赤和歌山医療センターへの就職を多く予定しており、その役割から大規模災害への対応が必要になります。看護師の肉体的、精神的負荷が大きいことについては、入学に際しての心構えから必要と考え、大学説明会において将来を見据えて看護職として活躍するための基礎教育の場である学部教育の厳しさを伝えています。様々な状況に対応するための基盤となる臨地での実習が困難な状況にある時は、教員が事例を演じる、教育ボランティアの協力、シミュレーション、電子カルテの活用など実践に近い学習環境を提供するようにしています。このような学習環境においても、学生の時間管理、健康管理、など到達度のチェックなど臨地実習での負荷に近い環境での学びに心がけたいと考えています。学生の間には災害対応訓練を取り入れることも大事と考え、令和2年度に消防署主導のもとに「多数傷病者対応訓練」を実施し、令和3年度にも計画しています。</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>2. 看護系の各学部を中心とした学生のさらなる高等教育課程としてのステップアップが明確になっており、様々な専門プログラムを準備している。また連携する各病院と協力した研究活動が行われていることは評価に値する。東京だけでなく千葉や和歌山にも大学院を設置するなど学生の実体に合わせた体制構築がされつつある。定員も充足されており、生涯学習支援としてのニーズにマッチしていると評価される。</p> <p>学士過程から修士課程、博士課程に至るまで大変充実した教育体制となっており、人材育成の点から今後が楽しみである。<u>大学院は多様の領域を研究テーマとすると思われるが、大学としての研究の方向性などを明らかにして欲しい。また、大学院・博士課程を修了した学生の進路（パス）について方向性を明らかにして頂きたい。アカデミアの道に進み指導的立場に立てる人材を是非、育成して欲しい。各地域の高等教育機関として地域内での役割を明確にし、地域間での情報を整理した上で研究成果として情報発信を行い、大学院の特色でもある多地域での展開の利点を活かして欲しい。</u></p>	<p>【看護学研究科】</p> <p>看護学研究科における高度実践の3つの修士課程コースは、看護、助産、公衆衛生のそれぞれの現場での実践、教育、研究能力の開発することを目標としており、それに沿った研究を行っています。研究課題は多岐にわたっていますが、実際の現場での課題をもとにした内容としています。さらに、在学中にTAについて学び、体験するようにしています。修士課程の進路に関しては、病院・公官庁等の実践現場が多いものの、修了者266名中11名は本学をはじめ大学・大学院に教員として就職し、教育に直接携わっています。博士課程においては、特に研究マインドを持って看護学の基礎教育に係ることができる教育・研究者の育成とエビデンスを創出しそれに基づいた看護実践にまで発展させることを目指すとしています。研究課題は看護学の中で多岐にわたっていますが、修了者11名のうち9名は本学をはじめ大学・大学院での教員となり、教育・研究指導に当たっています。</p> <p>【千葉看護学研究科】</p> <p>千葉看護学研究科は今年度に新規開設いたしましたので、院生の研究テーマはまだ明確ではありませんが、コアとなる科目としてコミュニティケア、生涯発達看護、看護職キャリア支援、看護マネジメントの4つを設けており、院生はこのいずれを将来ビジョンとするかに従って選択し、関連する研究を行う予定です。このいずれについても地域連携・多職種連携における看護の機能を明らかにし、これらを繋いでいく実装をめざした研究を行う方針です。</p> <p>【和歌山看護学研究科】</p> <p>和歌山看護学研究科は、和歌山県の保健医療福祉分野に貢献する高度専門職業人の育成を趣旨にしています。包括ケアマネジメント学、包括ケア教育学、包括ケア実践学を専門領域として2020年にスタートしました。和歌山県内に研修の場がない認定看護管理者の受験資格が得られますので、看護管理者を目指</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>3. 学士課程の課題としては、各学部の地域内での特色・役割を活かし、学部間交流を行うなどして、幅広い医療背景を把握できる人材育成を期待したい。特に医療栄養学科及び医療情報学科の学生確保に一層の努力が必要と思われるが、どちらも医療界においては大変貴重な人材であり、引き続きの学生確保に期待したい。</p>	<p>す学生も学んでいます。研究の方向性は実践現場での課題を研究テーマにし、将来は高い実践能力、管理能力、指導能力をもち地域包括ケアを推進していただきたいと考えています。1期生の研究テーマは、看護師の役割意識等に関して、看護実践や地域住民への支援に関して、実習指導に関してなどです。社会人入学して学び、修了した学生の進路は元の職場に戻り、実践に活かすという方向で考えています。</p> <p>【医療保健学部医療栄養学科】 受験生増加を目指し、学生募集部と連携し、医療栄養学科の医療に特化したカリキュラムを紹介するリーフレットの作成や高校への出張講義などの種々の広報活動を行っています。出張講義では疾患別の栄養管理を軸に高校生が日常生活で活用できる栄養に関する講義を行い、栄養学の必要性を伝えています。コロナ禍で、オープンキャンパス、学科体験・見学会はWeb開催とし、実際に参加できなくとも理解しやすく楽しい体験授業動画を多く配信し、また、病院勤務の卒業生や在学生の話も配信しました。しかし、来校型でのオープン・クラスは、人数制限など感染対策を行いながら、実施しました。医療現場での管理栄養士の業務内容が分かるように体験授業を設け、受験生に卒業後の管理栄養士のイメージが分かるようにし、さらに、本学科の医療に特化した特徴的な授業についても紹介するように努めています。</p> <p>【医療保健学部医療情報学科】 医療保健学部3学科の4年生に対して学生が協働して医療・保健の課題の解決や援助計画に取り組む協働実践演習を行っています。各学科学生との間で意見交換をして各専門職の役割を認識することが目的の一つになっています。また、大学としても学部横断的な共通科目の整備も進めているところです。教員レベルでの交流としては教材開発などの分野で共同研究を行っています。</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>4. 各学部においては、卒業後に海外での活躍や海外実習生の受け入れも予想されるが、語学研修などグローバル化を見据えた具体的取組があると良い。</p>	<p>学生確保については学生募集部との協働で、医療のわかる情報技術者の必要性を高校教員に浸透させ、オープンキャンパス等の来校、総合型選抜に結びつける展開を進めています。入学者の増加により収容定員の充足率も改善していますが、退学者の抑制も重要な課題です。高大接続を重視して入学前教育の学修状況・成績を活用して、入学当初からの学修支援に取り組んでいるところです。</p> <p>国際交流事業においては国際交流センター及び国際交流委員会が年 2 回の海外研修を実施しています。しかしながら令和 2 年度においては COVID-19 の感染拡大により海外への派遣はできませんでした。代替え研修としてオンラインによる海外研修を企画し実施することができました。具体的には交流合意書が締結されているオーストラリアのグリフィス大学と協働し、グリフィス大学のデジタルキャンパスにおいて、英語クラスへの参加、オーストラリアのヘルスケアや COVID 対応に関する講義、ホストファミリーとの交流などが研修内容に含まれました。各学科の取組は以下のとおりです。</p> <p>【医療保健学部看護学科】</p> <p>学部生の教育として、外国人患者対応能力向上のための教育プログラムを企画し実施しました。具体的には英語でのかかわりや異文化理解の促進を目的に、外国人模擬患者を対象とした看護場面のシミュレーションをオンラインで行いました。また、海外へ留学中の医療系学部生や大学院生との意見交換などの機会を設けました。</p> <p>教員への教育として、年 2 回の英語研修会の実施と学術的英語レベルに対応できるための英語勉強会を開催しました。また、海外での看護研究と教育についての講演会を開催しました。</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
	<p>【医療保健学部医療栄養学科】</p> <p>国際交流委員会主催のグリフィス大学オンライン研修やハワイ研修を通して語学や海外の医療について学ぶ機会を設けております。しかし、栄養学科からの参加者が少ないので勧誘に力を注ぐとともに、通常の講義においてグローバルスタンダードをより身近に学ぶ形を取り入れています。例えば、1年次の医学・医療概論の「国際的な視野を持つ栄養士をめざして」の講義において、英語論文への取り組みの入門編の指導を、また2年次応用栄養学Ⅰ、3年次公衆栄養学Ⅱでは、WHO や UNICEF のガイドラインやニュースを用いた講義を取り入れています。グローバル化と海外で活躍する管理栄養士を見据え、今後は、海外の食文化や宗教上の禁忌を学ぶ機会を増やしていきたいと考えています。</p> <p>【医療保健学部医療情報学科】</p> <p>医療・介護分野では、今後アジアでのニーズも高まると考えられますので、日本での看護師や介護福祉士を目指す EPA による研修生と本学科学生との意見交換を中心とした交流活動を 5 年前より継続しております。また、2020 年 3 月には台湾の秀傳医療グループ（台湾全域に 8 病院・3,600 床を擁する病院グループ、IT 専門職 200 名体制の医療情報開発部門を保有、傘下に”ASUS Life” というスタートアップ企業がありスマートヘルスに取り組んでいる）と教育・研究協定を締結しました。あいにくのコロナ禍の影響で具体的活動は休止状態ですが、今後、人的交流、共同研究を展開する予定です。</p> <p>その他に他大学の留学生の医療情報機器開発目的のインターンシップを企業と当学科教員が共同で受入れた実績もあります。今後は、このような学科及び教員個人のグローバルな活動を活性化して、学生を積極的に参加させることにより世界的視野をもった情報技術者の育成に努めていきたいと考えています。</p> <p>【東が丘看護学部看護学科】</p> <p>是非、検討したいと思っています。カリキュラムの改正の申請中ですが、国際</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>5. 大学院課程の課題としては、指導教員の確保ができれば、臨床現場の看護師等が生涯学習の場として勤務や子育てサポートを受けながらも各課程に進学しやすい体制を期待したい。</p>	<p>看護学Ⅱ、国際看護学実習(選択)可能なように実習施設の許可は得ております。</p> <p>【千葉看護学部看護学科】 千葉看護学部では、選択科目として国際看護論を配置している他、大学全体で開催される国際交流研修への参加をうながしています。今後は、研究科に配置されている科目、ヘルスグローカリゼーションの考え方を学部にも持ち込み、船橋市内の在留外国人の方に目を向けた授業展開や地域貢献を検討したいと考えます。</p> <p>【和歌山看護学部看護学科】 学部としては、現在、ベトナムのナムデイン看護大学とのMOUの締結を進めており、学生の交流も考えています。現在は、市内在住のナムデイン看護大学卒業生と学生・教員との交流イベントを予定しています。連携している日本赤十字社和歌山医療センターでは、海外への災害救護派遣を多く実施していることもあり、本センターから奨学金の給付を受ける学生は国際関係論、必修科目以外の外国語、災害看護援助論Ⅱ、ボランティア活動を選択する必要があり、奨学金を受けていなくても本センターに就職を希望する学生は、それらの科目を選択し履修しています。</p> <p>【医療保健学研究科】 本研究科は仕事を継続しながら週末に学ぶ体制を原則的に維持しており、生活におけるサポートは整えやすいと考えられます。さらに、昨年よりリモート講義が導入され、自宅で受講できるようになったことも、その点よい影響を及ぼすのではないかと考えております。一方、多様な生活背景があることも鑑み、ご指摘については、今後の参考にさせていただきます。</p> <p>尚、経済的サポートについて、雇用保険を取得している大学院生には「教育訓</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>6. 今後、超高齢社会の中においては、地域連携、地域包括ケア、多職種連携などが喫緊の重要な医療の課題となっているが、具体的な取組について明らかにして欲しい。</p>	<p>練給付金」制度について情報提供しています。</p> <p>【看護学研究科】 看護学研究科では実習協力病院職員には奨学金制度を設けています。その他は、公的補助制度（奨学金、育児支援）を利用しています。</p> <p>【千葉看護学研究科】 千葉看護学研究科は「働きながら学べる」大学院を前提に開設しており、在籍する院生及び受験生は、全員がフルタイムで仕事に従事しています。特にこのたびの COVID-19 感染拡大に伴い DX が整備されつつあり、通学時間なしに、または勤務の時間を調整して授業を受けることができたり、グループワークを ICT を活用して行うことができ、勤務との両立がはかられていると考えます。</p> <p>【和歌山看護学研究科】 コロナ禍で、対面での授業が難しい反面、zoom により自宅や職場からも出席できるようになりました。学生は職場の状況や家族の事情、感染拡大地域からの受講もその日の状況に応じて、対面と zoom どちらかを自由を選択して受講できる環境にあります。和歌山県においては、地理的に通学が困難な地域がありますが、現在のような学習環境により進学が可能になると考えています。</p> <p>【医療保健学部看護学科】 品川区の高齢者ケアに携わる有志と合同で、2020 年以降コロナ禍で休止しているものの、高齢者ケアに携わる実践家、当事者、家族を対象とした公開講座を 1 回／年実施しています。講義後は参加者の交流の場を設けてきました。また、品川区の地域包括ケアの拠点である品川リハビリテーションパーク（品川リハビリテーション病院、介護老人保健施設ソピア御殿山）での臨地実習を開始し、地域連携、多職種連携を学ぶ機会を設けています。</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
	<p>【医療保健学部医療栄養学科】</p> <p>要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築が求められ、管理栄養士の役割も重要なものとなっています。こうした現状に対応する管理栄養士を育成するために、学生には、行政管理栄養士が支援している高齢者による地域活動の自主グループの活動に参加するよう実習指導しています。男の料理教室や高齢者による食事サービスなどのグループ活動に学生を参加しています。(ただし、コロナ禍以降は講義のみとなっています。)</p> <p>【医療保健学部医療情報学科】</p> <p>コロナ禍において医療情報学科の学生の病院実習も制約をうけていますが、これまで地理的に対象となっていなかった地域の病院が実習先になり、地域の特性を学ぶ機会にもなっています。また、インターンシップには企業、医療機関ばかりでなく、介護・福祉施設でも行えるようにしています。</p> <p>年少人口及び生産年齢人口の減少により、超高齢社会での医療・介護ニーズの増大に対して、同分野の効率化・スマート化は避けられないものと考えています。医療情報学科では、地域包括ケアや地域連携の情報インフラを支える人材であることを意識して、情報技術者の教育カリキュラムを構成してきました。現在、2030年のヘルスケアをイメージした新しいカリキュラムを検討中であり、ICT、IoT、AI等の技術を活用した新しい医療、地域連携、地域包括ケアに対応できる人材像を再定義しているところです。また、超高齢社会の問題は日本のみでの取り組みでは解決しない課題があると考えています。</p> <p>その意味で、先述したアジアから来日している同世代の看護師・介護士候補者との交流はそれぞれの国が抱えた現状の問題点を意見交換できる場として有意義と考えています。</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>7. ホームページには『教育職員・事務職員の概況』が公開されており、陣容はしっかり構築されている。できれば、この情報も『点検・評価報告』に加え、今後の課題等を明らかにして頂きたい。</p>	<p>【東が丘看護学部看護学科・立川看護学部看護学科】 病院の地域連携室、目黒区と立川市の地域包括ケアセンター、老健施設、精神看護学グループ作業所など低学年時から地域に視点を移し、実習施設として実習を受け入れて頂いています。また、多職種連携の重要性を学ぶためその施設で働く多職種の方に直接具体的な取組等を含めて講義して頂いています。</p> <p>【千葉看護学部看護学科】 千葉看護学部では広いフィールド観を養うという目標に向かい、1年次より地域における看護と多職種連携に注目した講義・演習を配置しています。また、2年次には地域保健活動演習として高齢者や子育て世代に対して行われている地域活動に参加し、看護の役割を学んでいます。その他、JCHOとの連携のもと、入院から住み慣れた地域での療養生活への移行を支援する能力を獲得できるよう演習・実習を展開しています。</p> <p>【和歌山看護学部看護学科】 積極的に地域に出向くこと、また地域住民・専門職の方にキャンパスに来ていただくような企画を取り入れています。具体的には地域住民に看護教育ボランティアとして参加していただく仕組み、地域で行われている各種ボランティアへの参加、災害時に地域住民と共に乗り越えていくための公開講座や高齢者施設の外国人介護者も含めた災害時対策の取り組み、実習において他職種連携や地域包括ケアを実際に体験するなどです。</p> <p>承知しました。3年度から点検・評価報告に組み込み、今後の課題等を併せて記載してまいります。</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>8. 図書館は充実しており、さらに電子図書館としても機能している。今後、電子媒体を用いて海外を含む多くの情報をすべての学生が容易に得ることが、ますます重要になると思われ、情報へのアクセシビリティを配慮した ICT 化の促進が期待される。</p> <p>9. どの項目も真摯に取り組んでいる姿勢がみられ、課題対策の考察も十分に なされている。特に教養力を身に着け、健全な倫理観及び知識・技術・心を兼ね備えたバランスのよい医療人育成に向けた目標が明確であり、高齢社会とグローバル社会の中でのチーム医療の担い手育成の熱意を感じる。地域連携、地域包括ケアなどは、地域によって体制が異なる。可能であれば、地域差を勘案した体制構築をお示しいただきたい。</p>	<p>図書館では今後も電子書籍、電子ジャーナルといった電子媒体の拡充を行うとともに、電子媒体の利用についてオンラインでの利用者ガイダンス、Web における図書館利用案内の充実を進めることで ICT 教育を進めていく方針です。</p> <p>【医療保健学部看護学科】 地域により保健医療福祉体制に差があるなかで、チーム医療の人材育成として、医療保健学部看護学科では DP の一つに「看護の対象のなる人々や他職種と連携・協働して看護を展開できるコミュニケーション能力」を掲げています。その獲得に向けて、4年間を通じて、チーム医療に関連する授業科目（地域保健活動演習、チーム活動論）と、さまざまな地域（23区、23区外）と看護実践の場（医療機関、介護保険施設、地域包括ケアセンター、訪問看護ステーション、障害者社会福祉施設、学校、保健所・保健センター等）での見学演習と臨地実習を設けています。学修内容として保健医療福祉体制の現状の理解と連携・協働のあり方、看護の役割についての学修を課しており、学生は学び得たものをレポートに記すとともにポートフォリオで統合をはかる、というシステムをとっています。2021年度は、FDで改めて「看護の対象のなる人々や他職種と連携・協働して看護を展開できるコミュニケーション能力」を取り上げ、教育の質向上を目指しています。</p> <p>【医療保健学部医療栄養学科】 地域包括ケアでは、特に行政管理栄養士（県・市町村）は、地域ケア会議に参加し地域の現状解決のために、人材育成や企業誘致の提案をするなど、食に関する地域づくりをする必要があります。地域における、栄養指導・食環境・食材の確保などの重要事項は、現状の人材のみでは達成できないため、ボランティアの育成や連携が必要です。地域によって栄養指導方法は変わりません</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
	<p>が、アプローチ方法の工夫が変わります。都市部は、人材・企業も多いため潤沢に活動を支援できますが、高齢化が進む農村部には、人材が乏しいです。また、山間部の農村で高齢化が進む地域では、買い物難民が発生するため、移動スーパーや通販などの利用を促して食材などの確保が必要です。</p> <p>公衆栄養学実習において、都市型、地方都市型、農村型などの都道府県及び市町村の状況を調査し予防教室の企画立案を行い、クラス内にて発表し共有しています。地域差を勘案した企画立案の実習を通して、地域特性に対応できる能力を養うようにしています。</p> <p>【医療保健学部医療情報学科】</p> <p>地域差を意識した教育体制は医療情報学科で、まだ、具体的には構築されていません。今後は、今以上に地域連携、地域包括には、多様なステークホルダーの参画が望まれるようになると思います。また、この課題の解決には世界的な視野での課題解決の流れも想定されます。理想とする姿、グローバルな視点からの課題解決、必要とする情報インフラ等をしっかりと学修させ、その上でインターンシップ等により地域差を実体験、あるいはオンライン実習で体験する機会をつくり、地域差の由来の認識やより理想とする姿にするための解決策を思考できる資質を身につけさせるカリキュラムを検討してまいりたいと考えています。</p> <p>【東が丘看護学部看護学科・立川看護学部看護学科】</p> <p>大学の社会貢献としての地域活動は、学生が積極的にボランティアとして受け入れて貰っているのは立川市である。例えば市民マラソン救護班、立川駅帰宅困難者の訓練、消防団活動など多くの市民とも直接係わっていくことが出来る。一方目黒区は都市型であるが目黒の秋刀魚祭り、近くの子供たちクリスマスイベントボランティア、市民公開講座など学生との直接的な係わりの機会は少ない状況である。積極的に働きかけ努力している。公開講座は双方とも最低</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>10. 現在大学としては、学部が増設されるなど成長過程であり、学内や地域での情報共有と共に、今後の継続性を見据えた人材確保と引き続きの安定経営への取組の継続を期待する。</p>	<p>年一回は実施するように計画している。</p> <p>【千葉看護学部看護学科】 千葉看護学部では、現代における看護学生は卒業後に様々な地域で就労することから、基本的な地域包括ケアシステムの理解とともに各地域での実情を理解する力を養う必要があると考えております。1、2年次はキャンパスのある船橋市とも協力し地元での事業への参加などを通じて理解を深めます。3、4年次は千葉・東京・埼玉の施設で臨地実習を行うので、その機会を活かし、それぞれの地域の相違についてカンファレンス等を通じて学べるようにしています。</p> <p>【和歌山看護学部看護学科】 和歌山看護学部においては、地域連携、地域包括ケアを推進する体制で特徴的なことは、和歌山県と和歌山市との連携により設立された経緯があることです。そのために、実習施設の確保においても協力的であり、地域包括ケアを学ぶための施設も確保できています。地域で活躍できる看護職育成のために、「わかやま学」「ボランティア論」「ボランティア活動」「地域看護活動実習」をカリキュラムに組んでいます。また、地域での行事に積極的に参加しています。本学部は看護学部だけの教育環境ですので、高等教育機関コンソーシアム和歌山において募集される学生共同研究にも積極的に応募するなど、他大学の学生との共同研究にも取り組むようにしており、これまでに2回採択され他大学の学生たちと共同で活動しました。この活動についてはアクションプランとしても取り組んでいます。</p> <p>教職員確保については、幅広い人材を確保する観点から、関係学部及び関係部署と事前に求める人材像を共有した上で前広に手配を行うこととしてまいります。</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>11. 大学の特色として、関連する NTT などの企業体と連携した多地域での積極的な情報収集や情報発信も大いに期待したい。</p>	<p>本学の設立の経緯等から、NTT 関東病院や国立病院機構等との間で包括連携協定等を締結し、看護師等の育成や確保等に関し連携を深めてまいりました。</p> <p>また、各キャンパスが所在する各市・区とも協定等を締結し、コロナ禍ではありますが、可能な範囲で公開講座の実施等社会連携活動を展開しております。</p> <p>更に、本年度は、地域医療機能推進機構（JCHO）との間で包括連携協定を新たに締結した上で、ポストコロナにおける地域医療の課題やニーズに的確に対応するために医療・介護の質の向上やエビデンスに基づく医療提供システムの再構築を目的として、JCHO の職員を本学の大学院生として受け入れ、現場の課題解決を目標とした研究や JCHO をフィールドとした共同研究の実現をめざしてまいります。</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>【委員 C】</p> <p>1. 地域医療・看護における在学学生、卒業生への支援体制について</p> <p>貴学は6学部8学科の学士過程を東京地区と千葉、和歌山に展開されています。また、貴学の理念・目的に基づき、質の高い医療人に必要な人間性、教養の力の修得、そして健全な倫理観を持ち「知識、技術、心」を兼ね備えた医療専門職の育成という共通の基盤に立った教育を推進されています。さらにそれぞれの学部、学科においては、「その人らしさを尊重した看護」「食と健康の専門職」「ヘルスケア分野のシステム構築ができる専門職」「tomorrow's nurse」「地域社会の看護の創造」など特色ある取組をされていることは高く評価できます。</p> <p>以下お教えてください。</p> <p>特に、千葉、和歌山地区における地域医療・看護におけるご活躍は、貴学卒業者に期待されているものと存じます。在学中にそれぞれの地域医療・看護を学ぶための特色ある教育カリキュラムは提供されていますか。そして卒業後も地域に残り活動していく支援体制をどのように構築されていますか、そして卒業生の進路・キャリアの追跡に対するお考えをお教えてください。</p>	<p>【千葉看護学部看護学科】</p> <p>千葉看護学部については、県内に看護系大学が20校あるなかで、差別化をはかるためにも、地域医療・看護に焦点をあてたカリキュラムとなっており、1年次より地域医療機能推進機構（JCHO）の理事等や船橋市の地域包括ケア担当者により地域の医療、保健、福祉の実際を学ぶ内容としています。その後も授業で市の事業に参加したり、実習ではJCHOの病院・老人保健施設のほか、千葉県内の病院や訪問看護ステーションで地域の実情を踏まえた学修を行っています。卒業生の進路・キャリア追跡については、学生から選出した同窓会委員を基軸に、転職等の情報を継続的に追跡できるシステムを構築予定です。同窓会活動に参加したり、大学とつながり続けるメリット等を卒業前から学生に伝えることで、これらが機能する一助になると考えております。</p> <p>【和歌山看護学部看護学科】</p> <p>教育カリキュラムとしては、和歌山を理解し貢献するための「わかやま学」、日本赤十字社和歌山医療センターの看護職として地域・災害救護に貢献するために「ボランティア論」「ボランティア活動」の科目があります。卒業後も和歌山に貢献するために、日本赤十字社和歌山医療センターをはじめ県内の病院から奨学金を提供していただき、県内で活躍できる体制を整えています。2020年度に大学院和歌山看護学研究科を設置、2021年度には和歌山看護実践研究センターを設置し、卒業後も学ぶ場の提供を考えています。2022年度には和歌山助産学専攻科の設置を進めており、卒業後のキャリアを考える際の選択肢を準備しています。</p> <p>キャリアの追跡については、次年度卒業生を送り出すことから、具体的な追跡方法について検討していきたいと思っております。</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>2. 学長を本部長とする COVID-19 対策本部を早期から立ち上げ、当初の授業日程を変更することなく、リアルタイムそしてオンデマンドの双方を活用して教育の質を維持する努力をされたことは高く評価されます。以下お教えてください。</p> <p>今後の対面授業と遠隔授業の組み合わせ、時間配分などに関するお考えをお聞かせください。遠隔授業に対する学生並びに教職員からの評価は如何ですか。</p> <p>3. 学生アンケートや教職員アンケートの実施結果の概要をお教えてください。そしてそれらの結果は、6学部8学科間に違いを認めましたか。もし認めたと致しますとその要因分析と改善策をお教えてください。</p>	<p>各キャンパスの所在する地域の感染状況に基づき、本学が作成した対面授業制限レベルを変更しながら対処したいと考えております。</p> <p>昨年は、手探り状態であった教員も遠隔授業の進め方のノウハウを修得してきているので、今年度は感染拡大防止だけでなく授業の質向上の観点から対面授業と併せて有効活用できるものと考えております。</p> <p>学生による授業評価アンケートでは、遠隔授業に関する意見は賛否両論で、反復学習ができて良いと答える学生や、質問がしづらいと答える学生もいます。教員からは、学生の理解度の把握を学生の反応からつかみづらいなどの意見が出ており、学生の声をフィードバックする体制を強化してまいります。</p> <p>昨年度初めて、全学統一の調査内容による「学生の学修に関する実態調査」と「卒業時アンケート」を実施し、約9割の回収率を達成しました。実態調査の集計に際しては、学年による違いを分析しました。学生自身の知識や能力等学修成果に関する設問に於いては、14項目の内、「希望する資格取得に関する自信」と「グローバルな視野」が「身についた」「かなり・ある程度身についた」と回答した者の割合が各学年ともに低い結果となりました。</p>

委員からのご意見等

ご意見等に対する回答・対応等

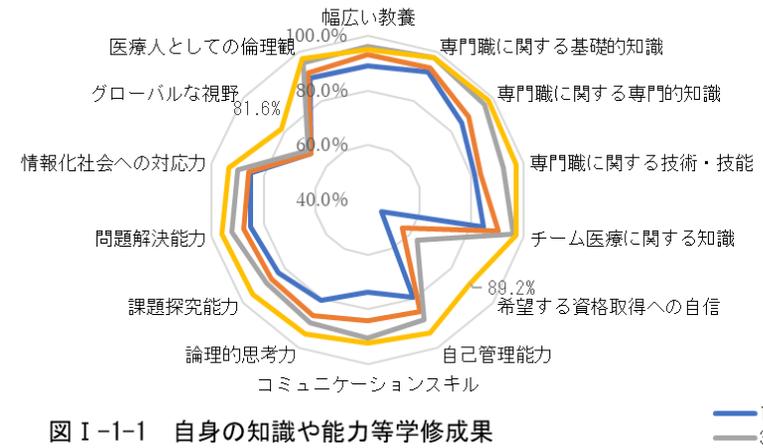


図 I-1-1 自身の知識や能力等学修成果

卒業時の集計に関しては、能力の向上があったと思うかとの14項目の設問に関してレーダーチャートにより分析した結果では、看護系、医療栄養系、医療情報系での比較では極端な違いは無かった。

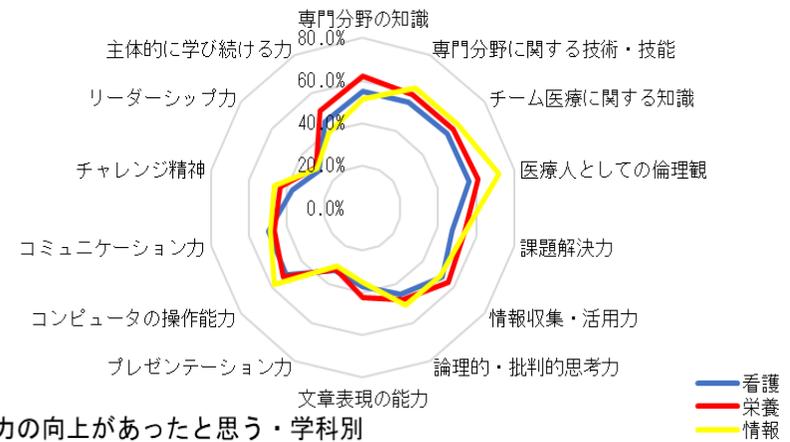


図6-2 能力の向上があったと思う・学科別

委員からのご意見等

ご意見等に対する回答・対応等

4. LMS を活用した反転授業などのアクティブラーニングを開始・実施し、文科省「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」に採択されたことは高く評価されます。今後も継続されていくにあたり、アクティブラーニングによる学修成果の測定（方法）をどのようにお考えかお教えてください。

5. 2020 年度グローバル化への取組

国際交流は、単に語学の修得のみならず多様性の理解にも極めて重要であろうと存じます。コロナ禍でも、これを維持継続すべくオンラインを活用した多数の企画を実施されたことは高く評価されます。今後貴学における COIL 型教育(※)の実施プラン等ありましたらお教えてください。

(29 頁)



次年度以降は、経年変化を分析したいと考えております。

Plus-DX 事業の一環として、ICE モデルなど学習評価の理論的枠組みを踏まえ LMS を活用したルーブリック評価を行い、学修要素、到達度を可視化することを計画しております。また、ディプロマポリシーと学生が修得した成績との関係をレーダーチャートで可視化したディプロマサプリメントを学生に公表するとともに、成績証明書の補助資料として交付することも計画しています。

本学の海外研修では、これまでも、訪問先の学生たちとの共同学習を一部実施してきました。医療情報学科では、アメリカのコミュニティカレッジで医療情報を学ぶ学生たちと一部オンラインで相互にプレゼンを行うという研修も実施したことがあります。また、ハワイのシャミナード大学の学生とは、現地において、文化的な側面について相互にプレゼンをしながら学びあうという研修

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>※Collaborative Online International Learning の略。</p> <p>オンラインを活用した国際的な双方向の教育手法で、Facebook、LINE、Twitter などの SNS や、Skype、Zoom などのビデオチャット、アップロードされた教材などを使って海外大学の学生と協働でプロジェクトやプレゼンテーション等を行う学習の形のこと。</p> <p>6. 修士課程において、コロナ禍による制約の中、オンラインを活用する様々な取組を行ったことは評価されます。以下、お教えてください。</p> <p>オンラインにより提供された講義、演習、実習により修得した学修成果をどのように評価測定されましたか。そしてその評価により、学生が修得できた能力は、コロナ前との比較においてどのような結果であったか、DP と紐づける形でお教え下さい。</p> <p>7. 博士課程において、「貢献できる教育研究者」の育成を推進するための教育環境整備に取り組まれていることは評価できます。(67 頁)</p> <p>また、地域との連携・共生、社会への貢献に繋がる特色あるプログラムを実施されていることも評価できます。しかしながら、提供されたプログラムにより学修者が何を修得したか、何が出来るようになったか、が明確には示されておりませんので、学生が修得した能力とその評価測定についてお教えてください。</p>	<p>も実施してきました。</p> <p>現在の社会の状況下においてオンライン環境が充実してきているので、テーマを決めて双方の学生たちが相互にプレゼンをし合うという研修も学生にとっては実り多いものになると予測できます。今後、国際交流の在り方を考慮する際に COIL 型研修も一つの方法として、積極的に模索していきたいと考えます。</p> <p>修士のオンライン講義の評価はレポートやプレゼンなどで評価しました。修士課程の最終評価は論文作成にあります。研究及び論文作成のプロセスにおいても適宜オンライン指導も交えながら行い、かえって、直接指導の機会が増えたと感じる場合もありました。もちろん、実験が必要な場合は感染対策を講じた上で学内で行いました。</p> <p>現在までのところ、修士論文の内容がコロナ前と比べ影響を受けているという印象は持っておりません。</p> <p>地域との連携・共生、社会への貢献として、以下の具体例が挙げられます。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 研究能力向上に繋がり、本学部の昨年度の公的研究費の獲得率はトップレベルに位置づけられている。 ② 地域レベルでは主たる実習施設東京医療センター、東京病院の看護師計画の「臨床看護研究」の研究指導を定期的実施し学会発表に繋げている。 ③ コロナ禍において実習施設実習指導者との ICT 活用の教育方法の工夫を実施し専門雑誌に投稿紹介している。 <p>以上より、教員の研究・教育能力は確実に博士課程教育によって向上し、本学学部教育等に良い成果が齎されていると考えます。</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>8. 修士課程、博士課程の修了者が増加していることも好ましいことと存じます。(65～67頁)</p> <p>その一方で、DP に到達していることの評価そして学位論文の評価方法(審査基準、審査会構成)についてお教えてください。</p> <p>9. アセスメントポリシーに基づく学修成果と教育カリキュラムの評価</p> <p>コロナ禍においてもその学びの質を維持すべく多くの努力を払われていることは高く評価されます。一方で、令和2年度点検・評価報告書において、様々な工夫を凝らして提供されたプログラムにより、学生が何を修得したか、何を出来るようになったか、そしてその評価測定に関する記述が少なく感じました。DP を満たす人材が育成できているか、CP に即した学修が進められているか、の検証は学生のみならず教育する側にも欠くことの出来ない行為であろうと存じます。</p> <p>学修成果の可視化に係る今後の工程をお聞かせください。</p> <p>10. アクティブラーニングを推進するための教学環境を整えるにあたり、6学部8学科そして3地区それぞれの特色を活かした整備の計画がありましたらお教えてください。</p>	<p>【看護学研究科】</p> <p>昨年度までは、課題研究(修士課程)では2名の審査員でDP到達度と論文評価を4段階で、特別研究(修士課程)では3名の審査員で5段階評価を行い、博士課程では5名の審査員(うち外部委員2名)で6段階評価を行っていました。本年度からはそれらを整理し、課題研究及び高度実践助産コース及び看護科学コースの修士論文は3名の審査員(講師以上の教員)で審査会を構成し、最終試験(DP到達度)と論文評価を4段階で評価することにしました。また、博士課程では、博士課程では5名の審査員(うち外部委員2名)で審査会を構成し、最終試験(DP到達度)と論文評価を4段階で評価するよういたしました。</p> <p>P25 質問4と同様の回答とさせていただきます。</p> <p>Plus-DX事業の一環として、ICEモデルなど学習評価の理論的枠組みを踏まえLMSを活用したルーブリック評価を行い、学修要素、到達度を可視化することを計画しております。また、デュプロマポリシーと学生が修得した成績との関係をレーダーチャートで可視化したデュプロマサプリメントを学生に公表するとともに、成績証明書の補助資料として交付することも計画しています。</p> <p>学修基盤推進室に於いて、ハードウェアの調査や、資源共有の為に貸出などを行い、各学部のニーズを把握しつつも、共同購入など資源の効率化を図る仕組みを構築いたしました。</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>11. 令和 3 年度内部質保証に係る組織体制図は明快であり、学長を議長とする内部質保証推進会議、自己点検評価委員会、外部評価委員会、IR 推進室、そして各部署がそれぞれの役割を演じることで PDCA が回り、内部質保証が一層確立されることが期待できます。</p>	<p>内部質保証は、大学基準協会が実施する大学認証評価において最も重要な評価の観点となっており、当然本学でも最も重要な取組であると認識しています。本学の内部質保証には、①大学運営全般の活動の質保証、②教育の質保証 の 2 つの観点で取り組んでいますが、どちらかという、教育の質保証の取組については、共通した評価指標に基づく点検・評価が行われていないため、可視化しにくい状況にあります。</p> <p>そのため、今後は、①大学全体レベル、②学位プログラムレベル、③授業科目レベル毎に、全学共通したフォーマットである「教学マネジメントチェックリスト(仮称)」を作成し、これを用いて各レベルにおいて自己点検・評価を実施すること等により、更に内部質保証に係る PDCA サイクルを適切に機能させてまいりたいと存じます。</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>【委員 D】</p> <p>1. コロナ禍のなかでもプログラムの継続のために努力なされた様子が伝わってきました。経験のない状況の中で、教員のみなさまも大変だったことと思われます。教員の側の心身のサポート体制はどのように工夫なされたでしょうか。</p> <p>2. コロナ禍での教育も、わからないなりに工夫と経験が積み重ねられ、教員と学生間の双方向的なコミュニケーションは少しずつ整えられてきたようにお見受けしましたが、見落としやすい課題は、32 頁にも少し触れられていましたが、学生同士の横のつながりが充実しにくいということであったかと思えます。学習の進捗に関する学生の不安も、学生同士でコミュニケーションがとれれば、他の学生の理解の程度（理解できないことやその程度）の様子もわかって安心すると思うのですが、一人で学習していると自分が理解できていないことに不安になってしまうところがあると思えます。そのような学生間のコミュニケーションの促進のために工夫されていることはあったでしょうか。今後の課題としてはどのようなことが残っているでしょうか。</p>	<p>授業等のサポートは教務部と PC サポートセンターで行い、新たな授業支援システムを導入し授業体制を支援しました。教員の心身サポートについては、事前に体制を準備していなかったため、突然適応障害の診断書が領域長経由で提出されたことから、サポート体制を保健室と相談室及び総務人事で協力し対応に当たりました。話をしっかり聞いて領域の先生方と共通認識が図れるよう支援に努めました。</p> <p>本年度から、実習・実験授業は対面授業を取り入れて全く一人で孤立することがないように時間割にしています。オンライン遠隔授業では、ブレイクアウトセッションを導入したり、授業後に学生同士の 30 分間の Zoom 討論を行うなどの工夫をしています。</p> <p>また対面の実験授業では、実験手順などをグループごとに学生間で進めるようにしたところ、学生同士のコミュニケーションが図りやすくなったという報告もあります。班行動が必要な実験・実習では、必要に応じて学生同士で Zoom などを使って、コミュニケーションを図っているようです。またアドバイザー教員と学生の個人面談（や集団面談）を、対面登校時や Zoom を用いて Semester ごとに複数回行っており、学生が孤立しないように努力しています。</p> <p>今後の課題としては、オンデマンド授業に偏ると、学生の学びに対するモチベーションの低下や、学修内容の定着を図ることが出来ないと危惧されることから、対面授業ができない授業は、オンライン授業を多く取り入れることも課題として挙げられます。また、学生へのフィードバック方法や促進も重要な課題です。教員の取り組みを FD などでも共有していくことも必要と思われます。</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>3. 各校で地域とのつながりを強め、多くの学生がボランティア等に出かけられるように努めておられる様子が伺われました。この努力は今後も拡大されることを提案します。今後医療はますます脱病院化し、地域ごとの医療提供体制の整備が進められていくと思います。その中で、医療系の大学が地域の主要な資源の一部として、従来の枠組みにとらわれず活動を展開すること、そのなかで教育が進められてゆくことが求められていくと思います。</p> <p>4. 総合型選抜や推薦入試が増えている由、一般入試の受験者数は減っているのでしょうか。それに対する対策が既に取られているようでしたら教えていただけたらと思います。一人一人の学生を大事にして社会人として自立できるようにすることは大事なセールスポイントとなるのではないかと思います。</p>	<p>昨年からのコロナ禍で、人との接触を伴うボランティアは大学としても現在、積極的に推進しにくい状況ですが、医療系の大学として地域との関わり、地域への貢献は重要と考えております。社会状況を注視しながら今後も多くの学生がボランティアに参加していくよう、働きかけ、情報提供を行ってまいります。</p> <p>令和3年度入試におきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大により、進路・進学先の早期決定の流れが高まる中、本学においても総合型選抜や学校推薦型選抜は、いずれも前年度を上回る志願者となりました。進路決定の早期化により、一般選抜での動向に懸念がありましたが、小規模ながら感染対策を十分に施しての来校型イベントを繰り返し実施したことや、Web イベントによる一般選抜対策の情報提供に努めた結果、多くの他大学で一般選抜の志願者が減少する傾向にあった中、本学では一般選抜においても志願者が前年を上回る結果となりました。</p> <p>令和4年度入試に向けても、新型コロナウイルス感染症の影響が残る中で、学部ごとに細分化したオープンキャンパスや入試説明会を来校型、Web の両面からそれぞれの特性を活かす形で実施しています。また、東が丘看護学部、和歌山看護学部で新たに総合型選抜を開始するなど新しい入学者選抜の実施により多様な入学生の発掘も予定しております。このような方策により、志願者増に向けた取組を継続してまいります。</p>

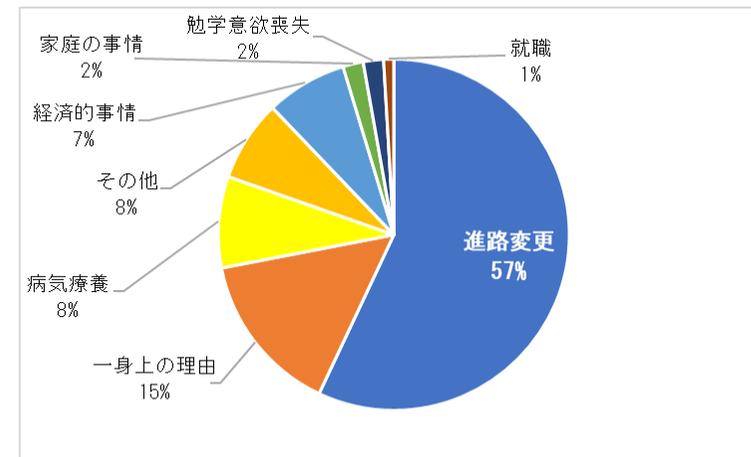
委員からのご意見等

ご意見等に対する回答・対応等

5. 留年・休学・退学者が増えていることには早急な対策が必要と思われます。

コロナ禍により登校が制限されている中で、学生同士で情報の共有が少なくなっているために修学についてこれられない学生がいるのが現状です。学修方法が分からない学生がいることはアンケートなどで把握しており、集計結果などを学部長等会議で報告しています。また、本学が実施している学生指導・サポート（アドバイザー制度、コンタクトグループ、学年担任制度）や学生相談の認知度を高める努力を行い、早い段階で学生が相談するようにしたいと考えます。さらに昨年度からは、退学理由の分布の他、入試区分における退学の分布の集計などを行い、多方面から退学について調べ始めています。

退学理由



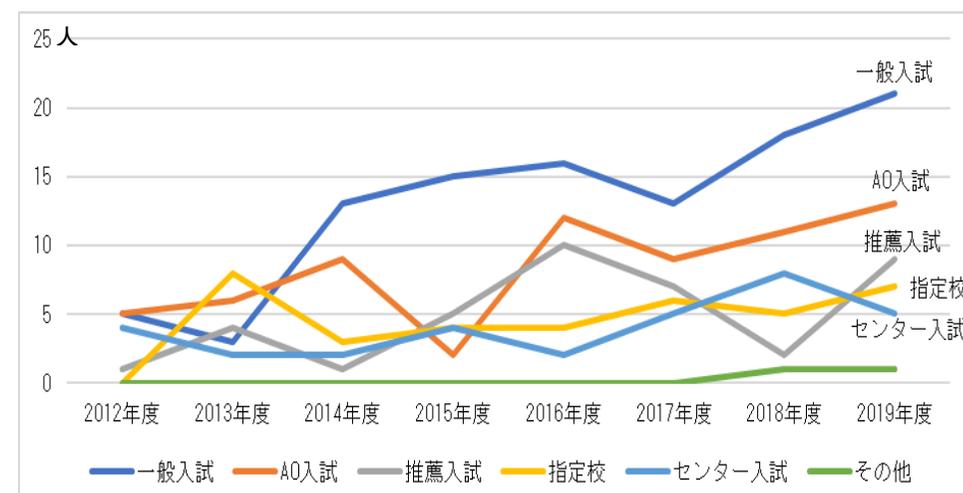
	進路変更	一身上の理由	病気療養	その他	経済的事情	家庭の事情	勉学意欲喪失	就職	計
人数	122	32	18	16	16	4	4	2	214

(2015年4月～2020年5月1日現在)

委員からのご意見等

ご意見等に対する回答・対応等

6. コロナ禍をきっかけとして、遠隔授業は今後も継続拡大されることと
 思われます。遠隔授業に肯定的な学生が過半数であった点が述べられて
 いますが、どのような場合にどのような利点・欠点を経験しているのか
 の詳細な検討が必要と思われます。(36 頁)



入試区分別退学者数の推移 (入学年度別)

IR推進室から補足させていただきます。

コロナ禍収束後も、授業科目の到達目標・特色を考慮して遠隔授業を継続して
 いきますが、拡大と言うよりも、より適正に遠隔授業を行うように努めていく
 考えです。オンデマンド方式の最大の長所は自分のペースで授業を受けられる
 ことです。LMS を活用することにより、繰り返して聴講でき、小テストや課題
 の確認が効率的に行え、反復することにより理解が深められるなど、特に座学
 を主体とした授業科目では好評のようです。ただ、双方向性には課題があり、
 そのため教員側が学生の理解度を十分把握できていない可能性があります。
 また、学生も授業の難易度について他の学生と共有しにくく、ついていけない
 と諦めてしまうようなことも起こりえます。一方、リアルタイム方式は学生の
 反応や理解度を把握しながら授業を進められるという点では双方向性にはす
 ぐれています。また、オンデマンド方式を反転授業として利用し、対面授業の

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>7. 教員の海外研修は、大学としての国際交流を振興したり教員を触発し更なる成長を促したりするには、一定期間以上（1-2年）滞在することが必要と思われます。毎年1名以上の教員を海外留学枠として確保するなどの工夫を期待したいです。（40頁）</p> <p>8. 災害看護学実習はユニークで、立川看護学部の特徴として広く紹介できるとよいと思いました。（42頁）</p> <p>9. 和歌山看護学研究科で大学院進学ということが浸透していないとのことですが（54頁）、地域のニーズに基づき、特定行為研修等の導入は検討されないのでしょうか。</p>	<p>質をあげている事例もあります。また、多くの教員のスキルも十分なものではなく、経験も少ないので、遠隔授業ツール活用事例勉強会を開催し、教員のスキル向上に努めている所です。</p> <p>これまでは公的制度に応募して海外留学を希望する教員は数人相談が有りましたが、いずれも採択に至らず実現していません。 今後、ニーズを確認し検討いたします。</p> <p>災害看護学実習についての広く一般への紹介については、可能な限りPRしております。今年は特に全体をビデオに撮りライブ発信もしました。 しかし、ライブや画像配信は詳細な解説がないと全体が捉えられずに誤解も生じるというデメリットもあるため十分に配慮し工夫を重ねたいと考えます。 学生が理解し対応可能な訓練になるように実施してまいります。</p> <p>和歌山県では本研究科の開設までは、看護系の大学院は和歌山県立医科大学のみで、大学院で学ぶ環境がなかったためと思われます。特定行為研修についてですが、和歌山県では2か所の研修施設があります。その中で、どの施設からも応募できる施設は一か所です。連携病院の日本赤十字社和歌山医療センターは特定行為研修機関となっておりますが、自施設で必要な8項目（①創傷管理関連、②栄養及び水分管理に関わる薬剤投与関連、③感染に係る薬剤投与関連、④血糖コントロールに係る薬剤投与関連、⑤術中麻酔管理領域（パッケージ研修）、⑥救急領域（パッケージ研修）、⑦創部ドレーン管理関連、⑧呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）を自施設の看護職対象に実施しています。県下のニーズについては調査等をしているわけではないので不明ですが、現在の教員組織</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>10. 文献レビュー発表会（58 頁）への変更は評価したいと思います。</p>	<p>では、特定行為研修等を導入することは難しいと考えています。今後、ニーズ等を把握したうえで、連携病院とも協議しながら可能性について検討をしていきたいと思っています。</p> <p>看護マネジメント学領域では、M1 の 6 月に実施していた研究計画報告会を、文献レビュー発表会に変更しました。従来から、6 月の研究計画は、その後数か月をかけて大きく修正されることを前提として行っており、無理に計画を立ててみるよりも、まずは、興味のあるテーマについてしっかりと文献検討を行うことが重要と考え、最初の発表会は文献レビューに絞ることとしました。領域内の研究指導に関わる発表会・審査会は、M1 の 6 月に文献レビュー発表会、11 月に研究計画発表会、3 月に研究計画報告会、M2 の 10 月に領域内審査会、12 月に修士論文審査会、という流れで実施しています。</p>
<p>11. 看護学研究科博士課程の在籍学生数が定員より多いことは、卒業できていないということかと思っています。なるべく通常の修学年限での卒業を目指すことをお勧めしたいと思います。（73 頁）</p>	<p>ご指摘の点は本研究科博士課程の重要な問題と認識しています。学生並びに指導教員への指導を行うとともに、年次ごとの発表会を含めて大学院として通常の修学年限での卒業を目指していきたいと考えています。</p>
<p>12. 学生の生活支援の説明に関してハラスメント防止が第一に挙げられていることに違和感がありました。（86 頁）</p>	<p>良好な修学環境維持のために、ハラスメントの防止は学生支援の中で重要な課題の 1 つと認識していますが、特段の意図があって 1 番目に記載しているものではありません。さまざまな学生支援施策の中の 1 つですので、次年度の報告書では記載順序を再考いたします。</p>
<p>13. 科研費申請の取組は評価したいと思います。教員一人あたりの採択件数、採択額、論文数なども KPI として活用することをお勧めしたいと思います。（94 頁）</p>	<p>中期目標・計画において「科学研究費補助金への積極的な申請を奨励するため、外部講師を招いての説明会を定期的で開催する。」と定めていることから、教員に対して、一層の研究意欲の向上と研究活動の活性化を図っています。</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>14. 文科省「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」の採択素晴らしいと思います。具体的な計画を伺えたらと思います。(94 頁)</p> <p>15. コロナ禍の中では図書館への来訪も学生にとっては難しいかと思われ ますが、送付による貸し出しや情報の電子化などはどの程度取り組ま れたでしょうか。(97 頁)</p> <p>16. 多くのキャンパスで地元自治体等との各種基本協定書が組まれている ことは大変評価したいと思います。上にも述べましたが、地域医療の一 員としての位置づけを確立することを期待します。(101 頁)</p>	<p>今後は教員一人当たりの採択件数、採択額、論文数なども KPI として、検証可 能な指標を設定することも検討してまいります。</p> <p>P25 質問4と同様の回答とさせていただきます。 LMSを活用したルーブリック評価を行い、学修要素、到達度を可視化するこ とを計画しております。また、デュプロマポリシーと学生が修得した成績との 関係をレーダーチャートで可視化したデュプロマサプリメントを学生に公表 するとともに、成績証明書の補助資料として交付することも計画しています。</p> <p>令和2年5月下旬より各キャンパス図書館において郵送貸出を実施しており ます。情報電子化につきましては学外から利用可能な電子書籍「MARUZEN eBook Library」そして試験問題のデータベース「系統別看護師国家試験問題＋保健 師国家試験問題 WEB 法人サービス」、学術情報データベースの「医中誌 Web」、 「J-DreamⅢ」「メディカルオンライン」、「EBSCOhost」、「最新看護索引 Web」 について大学外からも利用できるリモートアクセスを提供し、追加や更新に 合わせて学内に情報発信を行って周知を図っています。</p> <p>【五反田キャンパス】 2年生の地域看護活動演習（必修）では、品川区住民と関わりながら、健康づ くりについて学んでいます。希望者が参加する会であるため、健康づくりに前 向きな住民が中心となりますが、そこから住民の持つ力も学んでいます。地域 共生社会をキーワードとし、住民は「ケアの受け手」だけでなく、互いに支え あう力を持つことを理解することを目標としています。尚、地域活動への参加 に難しさを抱えた方々への支援については、保健師課程及び助産学専攻科の実 習で学んでいます。</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>17. 感染制御学教育研究センター「感染制御実践看護学講座」の取組は素晴らしいと思いますが、コロナ禍の中でどのように活動されてきているのでしょうか。昨年度は医療機関にとどまらず高齢者ケア施設等でクラスターが発生し、専門的知識を有する人材の不足などが痛感されました。今後新興感染症のリスクなどが予測される中、地域の中で有機的に人材が活躍できると素晴らしいと思いました。(104 頁)</p>	<p>【国立病院機構キャンパス・立川キャンパス】 大学の社会貢献としての地域活動は、学生が積極的にボランティアとして受け入れて貰っているのは立川市です。例えば市民マラソン救護班、立川駅帰宅困難者の訓練、まちの保健室、消防団活動など多くの市民とも直接関わっていくことが出来ます。一方目黒区は都市型であるので、学生との直接的な係わりの機会は少なくまちの保健室等です。積極的に働きかけるよう努力しています。公開講座は双方とも最低年一回は実施するように計画しております。</p> <p>【船橋キャンパス】 千葉看護学部では、今年度新たに JCHO 船橋中央病院と「未来を検討するグラウンドデザイン検討会」を立ち上げ、JCHO と本学部に通じた地域医療に貢献できる人材育成・活用をめざした検討を開始いたしました。また、地域交流イベントを企画し大学ができる地域貢献活動を行っていく予定です。船橋市については地域包括ケア推進課と研究科授業について情報交換を行う予定です。</p> <p>感染制御実践看護学講座は平成 22 年度の診療報酬改定時に新設された「感染防止対策加算」の施設基準である「適切な研修」として承認され、以来、令和 2 年度まで 228 名の修了生を輩出しています。修了生は「感染制御実践看護師」として、専従及び専任で感染制御活動に従事し、今回のパンデミック対応においても各施設や地域で活動を継続しています。</p> <p>講座については、2020 年（令和 2 年度）は開講時期を 9 月（通常は 4 月開講）に変更しハイブリッドで講義を行いました。今年度は通常通りに開講し、講義は同様の形式で進めています。</p>

委員からのご意見等	ご意見等に対する回答・対応等
<p>18. 産学連携事業も素晴らしいと思いました。今後は貴学の教員自身が資源として地域に情報提供できる仕組みが確立するとよいと思います。(105 頁)</p> <p>19. 学生のためのオンラインホームステイも評価したいと思います。国際交流センターの先生方のご努力が窺われました。(106 頁)</p>	<p>産学連携事業は従前から行っておりましたが、令和 2 年 10 月に「本学総合研究所の組織及び運営に関する要綱」を新たに制定したことから、共同研究、受託研究もより積極的かつ特色ある研究が推進されております。今後もその成果を公表し、更に地域に貢献できるよう取り組んでまいります。</p> <p>昨年度 9 月のオンライン研修では、受け入れ先の大学でホームステイプログラムがまだ実施されていたために、オンラインホームステイを申し込んで実現できませんでした。本学は初めての試みだと現地大学からコメントをいただきました。本学としては継続したいと思っておりますが、COVID-19 感染拡大のために現地大学のホームステイプログラムが閉鎖され、継続が不可能となっております。現地で再開され次第、本学としても再開したいと考えています。</p>